



「最適な方法を探して」

先月のお便りで「人が受け取る情報の8割は視覚情報」と書きましたが、これには個人差があります。人は、それぞれ感覚の受け取り方が違います。同じ大きさの音でも、人によって「うるさい」と感じたり「静か」と感じたりと様々です。これは、聴力の違いではなく、脳内での情報処理の速度と量の違いになります。これらの違いは人間の五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）＋前庭感覚（平衡感覚や傾き・速度）・固有受容覚（重力・圧力・骨や筋力）の7つの感覚の受け取り方によって変わっていきます。この感覚の偏りやバランスは100人居れば100通りあり、全く同じという人は存在しませんし、全てにおいて平均的に感じる人もおらず、何かしらの形で「感じやすい」感覚と「感じにくい」感覚があります。また、過敏に「感じすぎてしまう」事もあり、日常生活に影響が出てしまう事もあります。

私たちも、支援の中で子どもの感覚的な特徴は、一つの指標として重視しています。様々な感覚の受け取りの差があるので、まずは目の前にいる子どもの感じやすい事・感じにくい事を観察する中で見極めて行きます。感覚的な特徴が分かると、この子への関わり方や環境設定のヒントになります。例えば、視覚からの情報が入りやすい子には、図や写真、文章などの視覚情報を活用して伝えたり、聴覚に過敏さがある子には音が軽減出来る様に別室を用意したり、音を少なく出来る環境（イヤホンや耳栓など）を作っていきます。

この感覚的な偏りや特徴は、様々な経験を積み、成長をする中で軽減をされて行く事もありますが、全く無くなる訳ではありません。その時に、苦手な事を克服する事や我慢をする事だけを求めてしまっても、最終的には本人が苦しくなってしまう結果になってしまいます。その子の受け取りやすい方法や得意な方法で、苦手な事を補って行ける様にする事。更には、環境を整えて行く方法を知る事が大切になります。

その様な最適な環境や方法を見つけ出していく為に、事業所を有効活用して頂ければと思います。

児童通所課 嵯峨憲司



キッズサポートにじいろ 活動報告

にじいろ狭山活動紹介

春休み、桜の木の下を散歩したり、シャボン玉をしたり、春の季節を存分に楽しみました。

入学ご進級おめでとうございます。新しい生活で期待と不安の子ども達。4月はいつも以上に子ども達の様子をよく見ながら丁寧に、寄り添って過ごしてまいります。



3月21日(月) 「春探し」
智光山公園のバラ園に行ってきました。
参加した子ども達はみんな笑顔で怪我もなく、楽しまれました。
にじいろ入間に戻って、写真カードを制作して持ち帰りました。



にじいろ入間活動紹介

にじいろ狭山&入間新規職員紹介

にじいろ狭山



名前：池田沙織

歌を歌ったり体を動かすことが大好きです！
よろしくおねがいたします。



名前：佐々木恵子

早く子ども達と仲良くなれるよう頑張ります。
宜しくお願いいたします

にじいろ入間



名前：佐藤佑太

楽しく過ごしていただける様に笑顔で頑張ります。



名前：高橋信子

皆と仲良く「にじいろ」の時間を楽しく過ごしたいと思っています。
宜しくお願いします!!



名前：高木早苗

今年度も楽しい思い出が作れるよう、頑張ります。